

多摩ニュータウン学会第8回総会

一般公開シンポジウム

12:00～12:30 総会(会員対象)

13:30～17:00 シンポジウム(一般公開)

「ユニークなニュータウンライフを創ろう

～「共同体」から「共異体」へ～

日時:5月23日(日)

場 所:ベネッセコーポレーション 13階大ホール

多摩ニュータウン学会

多摩ニュータウン学会 2004 年度統一研究テーマ

ユニークなニュータウン・ライフを創ろう

－ 共同体から共異体へ－

多摩ニュータウンは、高度経済成長期に大都市への人口集中による住宅不足を解消するために建設された「団地」の「東の横綱」であった。そこでは、標準設計という手法によって均一な集合住宅が建ち並ぶまちが形成された。これは、短期間に低コストで一定品質の住宅を大量供給することを目指したものであり、時代の要請に応えることができる、適切で明快な解であった。同世代の家族が、同じ間取りの住宅に住み、同じライフスタイルを営み、皆が同じであることを「善きこと」とする地域社会 ＝ 「共“同”体」が築かれたのである。

しかし、社会が成熟するにつれて、「同じである」ことはもはや「善きこと」ではなくなった。新たに建設される住宅は「個性」を主張しあい、そこで営まれる生活も多様になった。仕事だけでなく、趣味や市民活動などを通して自己実現するライフスタイルは珍しいことではない。一人一人がユニークなライフスタイルを目指すようになっていく。一方で、それぞれが自身のスタイルを主張するだけでは地域で一緒に生活できないことも、徐々に認識されるようになった。互いに異なることを認めあうことから始める、ともに生きる地域社会 ＝ 「共“異”体」を育むことが必要とされ始めている。

新しい担い手としての市民の緩やかな絆が育ちつつある多摩ニュータウンの地域社会は、これから「共同体」から「共異体」への変化を最も鮮明に映し出すだろう。さらに大きなキャパシティと良好な居住環境を備えた多摩ニュータウンの都市基盤は、多様な個性が共存する「共異体」のゆりかごとなるだろう。

さあ、新しい地域社会のあり方を指し示す、ユニークなニュータウン・ライフを創っていこう。

2003年度事業報告(案)

■ 理事会・役員

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ● 会 長：細野助博 | ● 名誉会長：伊藤滋 |
| ● 筆頭理事：高田一夫 | ● 会員管理：大竹美登利・瀬戸寿一 |
| ● 庶 務：木内基容子・松本暢子 | ● 会 計：松原和男 |
| ● 研究・企画：吉川徹・岩永ひさか | ● 編 集：藤森平司・岡田ちよ子 |
| ● 広報・渉外：植月真理・寺島敏雄 | ★ 事務局：炭谷晃男 |

	月日	審議事項(第一議題のみ)
第1回理事会	6月12日	総会・シンポジウムの総括、理事担当業務割り振り
第2回理事会	7月10日	15年度事業実施について」
第3回理事会	9月10日	研究大会について、ウォッチングについて
第4回理事会	10月9日	研究大会について、会員メーリングリストについて
第5回理事会	10月27日	研究大会の準備と役割分担について
第6回理事会	12月11日	研究大会の総括、多摩ニュータウン研究6号について
第7回理事会	1月8日	2004年度統一研究テーマについて、多摩ニュータウン研究6号
第8回理事会	2月12日	2004年度統一研究テーマについて、多摩ニュータウン研究6号
第9回理事会	3月11日	2004年度総会・シンポジウムについて、会則の改正について
第10回理事会	4月8日	2004年度総会・シンポジウムについて、会則改正、役員改選
第11回理事会	5月13日	総会・シンポジウムの準備、新役員について

■ 研究会(連続講座:「みんなでつくろう学校共育コミュニティ」)

(共育部会と学校共育コミュニティ研究会との共同企画:多摩市公民館市民自主企画事業として開催)

日	会場	テーマ
8月23日	ベルブ永山	学校共育コミュニティとは? 講師:NHK解説委員 早川信夫
9月20日	ベルブ永山	学校をどまん中に据えて～親と教師の本音トーク 講師:博報堂 武田洋幸さん 暮らしの情報センター 鎌田菜穂子さん
10月25日	東永山社会教育施設	学校跡地を活用しよう 講師横浜国立大学大学院 大原一興先生(建築学) 実践発表 多摩太鼓連盟、まるちゃんキャンプ
11月1日	ベネッセコーポレーション 会議室	ネットワークを活用しよう～子育てネットワーク大集合～ 講師 土屋美恵子日本こども NPO センター理事 実践発表:倉掛秀人せいがの森保育園副園長 柴田 多摩子ども劇場

■ ウォッチング

今年度は実施されませんでした。

■ 総会

- テーマ:「明日のニュータウンの担い手は？」
- 日 時:5月17日(土)総会 12:00~13:00
- 場 所:ベネッセコーポレーション 13階 大ホール
- 内 容:①2002年度事業報告および収支決算について
②2003年度事業計画および収支予算について
③役員改選について 他

- 一般公開シンポジウム 13:30~17:00

～明日のニュータウンの担い手は？～

ハードを中心としたニュータウン開発が終わり、人と人とのつながりの中で課題解決やあ
多らしい価値を創造していくニュータウン再生が始まっています。・自立的・自主的に活
動する市民エネルギーの集合体が、明日のニュータウンの担い手です。千葉・港北・筑
波・多摩の4大タウンにおいて、市民と行政がどのように連携して課題解決に向かっ
ているのか、議論します。

- ・開催日時:5月17日(土)13:30~17:00
- ・開催場所:ベネッセコーポレーション 13階大ホール
- ・基調講演:高橋賢一氏(法政大学工学部 教授/元住都公団 参事役)
- ・ パネラー:福富洋一氏(港北ニュータウン:わ創連都筑 事務局長)
武藤 弘氏(千葉ニュータウン:「月刊千葉ニュータウン」代表)
島袋典子氏(筑波研究学園都市:つくばインキュベーションラボ 代表取締役)
炭谷晃男氏(多摩ニュータウン:多摩ニュータウン学会 事務局長)
- ・ コーディネーター:
細野助博氏(中央大学総合政策部 教授/多摩ニュータウン学会 会長)

■研究大会

多摩ニュータウン学会 第7回研究大会プログラム

テーマ:多摩ニュータウン市民活動の「技」と「行動」

多摩ニュータウンの担い手たちが集います。

日ごろの活動や研究成果を披露し交流を深め、

市民の知恵とパワーを結び合って、

多摩の未来を担う活動をさらに育んでいきましょう。

日時:11月8日(土) 13:30~17:40 <13:00 開場>

開催場所:東京都立大学 国際交流会館

内容:市民の「技」と「行動」が未来を拓く ~私たちが担う明日のニュータウン~

① 基調講演 : 炭谷晃男氏 (大妻女子大学 社会情報学部 教授)

② 市民・学生の方から活動のご紹介と研究発表(質疑応答・総合討論あり)

【第一部】

*江尻 京子氏 (多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター長)

=環境・リサイクル活動

*岡本 光子氏 (Seeds代表)

=子育て活動

*小西 渡氏 (多摩青年会議所まちづくりビジョン委員会委員長)

=まちづくり活動

*作道 好男氏 (多摩事由大学運営委員長)

=地方自治

【第二部】

*横山 裕幸氏 :つるまきまち広場計画

*都立大学上野研究室:①多摩ニュータウンのコミュニティセンターにおける
フリースペースの利用実態 に関する考察

②多摩ニュータウン集合住宅における単身高齢者の
居住様態

③多摩ニュータウン諏訪・永山地区の集合住宅に
おける居住者によるリフォームの実態調査

*中央大学細野研究室:学生が創造する多摩ニュータウンのクリスマス

■学会誌

『多摩ニュータウン研究NO. 5』を3月に刊行(多摩交流センターの助成)

■ニュースレター

第10号	7月	2003年度の統一研究テーマご紹介と2003年度総会のご報告
第11号	1月	

■「多摩ニュータウン学会便り」連載

多摩ニュータウンタイムズの奇数月に「便り」を連載

■学会 IT

○Web ヒット(40833)

○mailing list

・rainbow	会員	2826通(2728)
・sky	理事会	2890通(2324)
・wind	研究企画委員会	282通(282)
・earth	情報ネットワーク部会	660通(594)
・cosmos	コミュニティ部会	1060通(1052)
・smart	スマートグロース部会	182通(182)
・smart-infra	情報タスクフォース	179通(179)
・city	まちづくり部会	232通(213)
・sodatsi	共育部会	394通(311)

注 カッコ内の数は昨年のカウント数

■会員数

正会員 198名

学生会員 16名

家族会員 4名

■団体会員 8団体

- ・多摩大学総合研究所
- ・ベネッセコーポレーション
- ・多摩美術大学
- ・多摩ニュータウンタイムズ
- ・京王エージェンシー
- ・多摩市文化振興財団
- ・生活クラブ生協
- ・創業

以上

2003年度多摩ニュータウン学会決算総括表

(2003年4月～2004年3月)

1. 収入

金額単位 (円)

大項目	中項目	予算額	決算額	決算-予算	説明	(納入件数)
1. 会費		922,500	612,000	-310,500		163
	1. 正会員会費	600,000	450,000	-150,000	@3,000	150
	2. 学生会員会費	15,000	10,500	-4,500	@1,500	7
	3. 家族会員会費	7,500	1,500	-6,000	@1,500	1
	4. 団体会員会費	300,000	150,000	-150,000	@30,000	5
2. 補助・交付金		100,000	0	-100,000		
	1. 補助金	100,000	0	-100,000	多摩交流センター助成金未入金	
	2. 交付金	0	0	0		
3. 諸収入		170,000	149,754	-20,246		
	1. 事業収入	170,000	133,650	-36,350	学会誌売払い、懇親会参加費等	
	2. 協賛金	0	0	0		
	3. 寄附金	0	0	0		
	4. 雑収入	0	16,104	16,104	銀行利息、戻し入れ金	
4. 繰越金		-222,205	-222,205	0		
	1. 繰越金	-222,205	-222,205	0	前年度会計より	
収入合計		970,295	539,549	-430,746		

2. 支出

金額単位 (円)

大項目	中項目	予算額	決算額	決算-予算	説明
1. 研究費		120,000	66,259	53,741	
	1. 研究会費	100,000	66,259	33,741	研究会・大会等講師謝礼、運営費
	2. 部会活動費	20,000	0	20,000	部会等研究調査活動費
	3. 資料収集費	0	0	0	
2. 事業費		546,000	142,730	403,270	
	1. 事業費	170,000	77,230	92,770	イベント・交流会開催費
	2. 学会誌発行費	300,000	0	300,000	学会費印刷・発行費(未決)
	3. 広報費	76,000	65,500	10,500	記事掲載料
3. 事務費		298,000	231,413	66,587	
	1. 備品費	0	0	0	
	2. 消耗品費	10,000	3,578	6,422	文具・用紙購入費等
	3. 印刷通信費	238,000	199,520	38,480	印刷代、郵送料、ネットワーク維持費
	4. その他事務費	50,000	28,315	21,685	会議費、振り込み手数料、書記手当
4. 雑費		6,295	0	6,295	
	1. 雑費	6,295	0	6,295	
5. 予備費		0	0	0	
	1. 予備費	0	0	0	
支出合計		970,295	440,402	529,893	

収支(残高)

収入合計	539,549	
支出合計	440,402	
確定残高(収入 支出)	99,147	2004年度会計に繰越

残高内訳

現金	42,712	
銀行口座	52,963	MIZUHO銀行町田支店普通口座預託
郵便局口座	3,472	郵便局口座預託

2004年5月23日

多摩ニュータウン学会
会長 細野 助博

会計担当 松原 和 男

監査報告書

学会会則第8条第1項第3号に基づき、2003年4月1日より2004年3月31日に至る2003年度における本学会の会計及び会務の執行状況に関し、下記の通り報告いたします。

記

1. 帳票及び各種帳簿を精査しました結果、いずれも適正かつ正確に処理されているものと認めます。
2. 事業報告書及び各種議事録等を調査しましたところ、いずれも適正かつ有効に会務が執行されていることを認めます。

2004年5月23日

多摩ニュータウン学会

監事

作道好男 

監事

横倉舜三 

2004年度事業計画(案)

1. 研究会の開催

- ・各部会活動の成果や会員の要望に基づく研究会の開催
- ・年間3回程度予定

2. 多摩ニュータウンウォッチングの開催

- ・第14回ウォッチング(多摩のよこやま)
- ・第15回ウォッチング(神奈川県黒川地区)

3. 年次研究大会の開催

2004年度統一研究テーマ

「ユニークなニュータウン・ライフを創ろうー共同体から共異体へー」

4. 学会等の刊行

『多摩ニュータウン研究』の発刊(多摩交流センター助成)

5. 「ニューズレター」の発行(3回/年程度)

6. その他

2004年度多摩ニュータウン学会収支予算(案)

(2004年4月～2005年3月)

収入

予算額 単位(円)

大項目	中項目	予算額	説 明
1. 会費		798,000	(212名+6口)
	1. 正会員会費	600,000	@3,000*200人
	2. 学生会員会費	15,000	@1,500*10人
	3. 家族会員会費	3,000	@1,500*2人
	4. 団体会員会費	180,000	@30,000*6口
2. 補助・ 交付金		310,000	
	1. 補助金	310,000	多摩交流センター助成金
	2. 交付金	0	
3. 諸収入		150,000	
	1. 事業収入	150,000	事業収入、学会誌売払い、参加費等
	2. 協賛金	0	事業協賛金
	3. 寄附金	0	
	4. 雑収入	0	利息、雑収入
4. 繰越金		99,147	
	1. 繰越金	99,147	2003年度会計より
収入合計		1,357,147	

支出

予算額 単位(円)

大項目	中項目	予算額	説 明
1. 研究費		120,000	
	1. 研究会費	100,000	研究会・大会等講師謝礼、運営費
	2. 部会活動費	20,000	部会等研究調査活動費
	3. 資料収集費	0	書籍、映像資料等の収集整理費
2. 事業費		956,000	
	1. 事業費	150,000	イベント、交流会開催費等
	2. 学会誌発行費	730,000	学会誌印刷・発行費
	3. 広報費	76,000	記事掲載料
3. 事務費		280,000	
	1. 備品費	0	備品購入費等
	2. 消耗品費	5,000	文具・用紙購入費等
	3. 印刷通信費	235,000	印刷、郵送料、ネットワーク維持費等
	4. その他事務費	40,000	会議費、振込手数料等
4. 雑費		0	
	1. 雑費	0	
5. 予備費		1,147	
	1. 予備費	1,147	
支出合計		1,357,147	

2004年5月23日

多摩ニュータウン学会

会長 細野 助博

“元気印の女性”による一般公開シンポジウム

ユニークなニュータウンライフを創ろう

◎ ◎ ～共同体から共異体へ～

多摩ニュータウン学会は、「ユニークなニュータウンライフを創ろう～共同体から共異体へ～」をテーマに、以下の通り一般公開シンポジウムを開催致します。

皆が同じようなライフスタイルで成長してきた時代から、それぞれが独自のスタイルを持ち、異なることを互いに認め合いながらともに地域社会を形成していく時代に転換していこうというのが、今年の学会テーマです。

シンポジウムの基調講演もパネルディスカッションも、出演者はすべて元気いっぱいの女性陣で行います。

記

- **主催**：多摩ニュータウン学会
- **日時**：5月23日（日）13：30～17：00
- **場所**：ベネッセコーポレーション 13階 大ホール
（多摩市落合1-34 多摩センター駅より徒歩5分）
- **出演**：基調講演：「ユニークなニュータウンライフを創る」
講師：佐田 智子氏（朝日新聞社 総合研究本部主任研究員）
パネルディスカッション：
佐田 智子氏
新井 美沙子氏（東京都都議会議員／NPO東京ランポ 理事）
植月 真理氏（株式会社ベネッセコーポレーション 広報室長／多摩 NT 学会理事）
布川 千春氏（有限会社セルフィッシュネス 代表取締役）
コーディネーター：松本 暢子氏（大妻女子大学 社会情報学部 教授）
- **入場料**：無料

講師プロフィール

佐田 智子（さた・ともこ）氏 朝日新聞総合研究本部 主任研究員

1969年、朝日新聞社入社。福島支局、社会部、アエラストッフライター、編集委員を経て、2002年から現職。

警察担当などの後、72年から80年までの『いま学校で』シリーズなど教育問題の取材に一貫して携わり、東京都庁、文部省担当、横浜支局次長などを経て、92年から企画報道室編集委員。社会潮流、歴史認識などをテーマに『語る』など大型インタビューを手がけ、『季節の思想家』シリーズ

などを連載。現在、総合研究本部で「団塊の世代」の過去、現在、未来をめぐるレポートを執筆中で、多摩地域でも取材を重ねる。昨年度は、朝日新聞と「ネットワーク多摩」が提携して行った「新聞論」講義（東京工科大が基幹大学）のコーディネーター、講師を務める。

著書に「季節の思想家」（平凡社）、「新・身分社会―「学校」が連れてきた未来」（太郎治社）、共著に「いま学校で」全8冊、「アメリカは動く」（朝日新聞社）ほか。

パネリストプロフィール

新井美沙子氏

神戸市生まれの東京育ち。多摩市で暮らし始めて25年。夫と2人の息子、たくさんの仲間に支えられ、1987年から8年間、多摩市議会議員を務める。ローテーションで新人と交替後、その体験を活かしてNPO活動に没頭していたが、2001年に都議会議員となり再び政界に戻る。

現在も、まちづくり支援の「NPO法人東京ランポ」、障害者と共に働く場づくりの「ワーカーズコレクティブ・風」、地域通貨「COMO倶楽部」、世界一周の旅に若者を送り、地域を元気にする「PPT (Peace Project @ Tama)」、自然な河川をとりもどす「よみがえれ 大栗川を楽しむ会」など様々な分野のNPO活動に携わっている。

都議会議員として、またこれらNPOの活動を通して、地域活動に参画しながら市民と行政とのパートナーシップを実践中。NPOを支える基盤づくり（NPOへの税の優遇制度・NPOファンドづくり・NPOと行政との協働推進など）、市民参加のまちづくり推進、持続可能な開発、男女がともに働き、家事労働を担う社会づくりなどを主なテーマに議会活動に取り組んでいる。

URL <http://misa-a.com/>

植月真理

岡山県の北、津山市生まれ。瀬戸内海の小豆島で思春期を過ごし、岡山市内の大学で青春期を送った根っからの瀬戸内っ子。大学卒業後、岡山に本社を置く株式会社ベネッセコーポレーション（当時は、福武書店）に入社。「進研ゼミ」の教材編集、社長秘書を経て広報に。1994年4月、同社の東京本部が多摩市に移転した際に、東京に転勤。

岡山在住時は、週末をマリンスポーツ・スカイスポーツで過ごしたが、山にも海にも遠い多摩勤務となり、数年間、会社と自宅の伝書バトと化す。「会社との“縁”が切れたら、多摩との“縁”もなくなる・・・」と思っていたが、多彩なNPOはじめ多摩の人々と交流し、ニュータウンのあちこちを探訪するうち、考えが変わってきた。現在は、多摩ニュータウン学会、PPT (Peace Project @ Tama)、地域通貨のCOMO倶楽部運営メンバーの一員など、職場以外にも「居場所」を見つけ、転勤族であるにもかかわらず、多摩に根づこうとしている。多摩ニュータウン市民歴10年。

布川千春

平成6年地域で暮らす女性達がネットワークを通してプロジェクト事業を開始。子育て、親世帯同居等を抱えながら仕事をする女性達は、暮らしと仕事は切り離せない関係。そんな中でも仕事のキャリアを積んでいける環境をつくりたい。個々の環境を受け入れる働き方ができないかをテーマに共通す

る仲間が集い、わがまま会社、(有)セルフィッシュネスを立ち上げる。設立メンバーは、主婦でキャリアの広告代理店出身者やプライダルコーディネーター、独身キャリアの広告代理店者出身者等がいる。自身はアパレル業界で企画・生産管理・営業を手がける。

平成7年から8年間八王子市南大沢駅周辺の商業誘致、コミュニティ活性化の行政事業まちづくり「地域活性化対策事業」を受託。事業当初は、南大沢駅周辺には2つの商業施設だけ、同年ダイエーの撤退もあり街づくりに多く課題を含む時期に遭遇。行政、商業者、暮らして(地域住民)による協働のまちづくり事務局運営を担う。平成11年、地域暮らし手による任意団体「生活会議」と協働による「暮らしの情報センター」を設立。現在、大型集合マンションにおけるコミュニティ支援「暮らしの情報センター/セルフィッシュネス」事業を展開している。

有限会社セルフィッシュネス 八王子市南大沢 2-2 パオレビル4F 暮らしの情報センター/セルフィッシュネス
tel0426-74-9417 / fax0426-75-7585 / www.selfishness.net / info@selfishness.net

松本暢子(まつもと のぶこ)大妻女子大学社会情報学部教授

日本女子大学家政学部住居学科卒業、東京都立大学大学院工学研究科(建築学専攻)博士課程修了。工学博士。1992年より大妻女子大学社会情報学部講師、2004年より現職。

「都市環境学」「都市計画論」「現代住居論」等の講義を担当するとともに、学生とともに住環境、まちづくりの調査・研究を行っている。学位論文は、「既成市街地における高齢者の地域の実態と居住類型に関する研究」。著書として、「まちづくりの近未来」(学芸出版・共著)、「まちづくりの科学」(鹿島出版会・共著)ほかがある。

高齢社会における住宅、住環境の研究をベースとして、都市計画・住宅問題分野での研究、教育とともに、自治体における計画策定および決定に参画している。東京都世田谷区都市計画審議会委員、東京都町田市都市計画審議会委員、東京都江戸川区住宅マスタープラン策定委員会委員ほか。

役員の選任について(案)

多摩ニュータウン学会

2004年度～2005年度

退任	理事	植月	真理	新任	理事	鎌田	菜穂子
	理事	大竹	美登利		理事	倉掛	秀人
	理事	高田	一夫		理事	篠原	啓一
	理事	寺嶋	敏雄		理事	鈴木	久美子
	理事	藤森	平司		理事	濱野	克庸

会則の改正について(案)

改正の趣旨

評議員会を設置することによって、旧研究企画委員会の持っていた機能を復活させるとともに、理事経験者等の識見を活用、理事の負担を軽減し、学会の活性化を図る

多摩ニュータウン学会会則改正案 新旧対照条文

改正案

現 行

(評議員会及び評議員)

(委員会)

第 1 4 条 本会は、会務運営及び第 3 条の事業遂行について諮問するため、評議員会を置き、20 名以内の評議員をもって組織する。
2 評議員は、会長が理事経験者等の中から理事会の議を経て委嘱する。
3 評議員の任期は 3 年とし、再任を妨げない。

第 1 4 条 本会は、会務運営及び第 3 条の事業遂行のために必要な委員会を設ける。
2 委員会の設置及び廃止は、理事会で決定する。
3 委員会の委員は、理事会の議を経て会長が委嘱する。

(評議員会の招集及び議長)

第 1 5 条 評議員会は、必要に応じて会長が召集する。
2 会長は、評議員の過半数から請求があったときは、評議員会を招集しなければならない。
3 評議員会に議長 1 名を置き、評議員会において選任する。
4 議長は、理事会に出席して意見を述べることができる。

(諮問)

第 1 6 条 次に掲げる事項については、会長は評議員会に諮問しなければならない。

- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (2) 会則の変更
- (3) その他理事会が必要と認めた事項

(研究部会)

(研究部会)

第 1 7 条

第 1 5 条

以下省略

以下省略

(附則)

この会則は、2004 年 5 月 23 日から施行する。